

学校業務改革の推進状況について

令和3年7月

岐阜市教育委員会学校指導課

1－1 教職員サポートプランの進捗

公立学校の教師の勤務時間の上限に関するガイドラインの「指針」への格上げ（施行日：令和2年4月1日）

- ＜上限時間＞①1か月の時間外在校等時間について、45時間以内
②1年間の時間外在校等時間について、360時間以内



岐阜市教職員サポートプラン

■ 目標

時間外在校等時間が月 4 5 時間以内となることを目指しつつ、
まずは、時間外在校等時間が月 8 0 時間を超える教職員をゼロにすることを基本目標とする。

教育委員会

物的環境整備によるサポート

- ① 校務支援システムの導入と活用（出席簿、指導要録、調査書等に関わるデータ連携）
- ② タイムカードを活用した労務管理（時間外在校等時間の正確な把握）
- ③ 勤務時間外における留守番電話の推奨（全学校で実施）
- ④ タブレット端末、デジタル教科書等、指導支援ツールの整備
- ⑤ 各教科における年間指導計画（コンパス・カリキュラム）の作成

1－2 教職員サポートプランの進捗

教育委員会

人的配置によるサポート

- ① いじめ対策監の全校配置（2年目）
- ② ICTサポーターの活用（NTTドコモとの連携協定）
- ③ 運動部活動指導員の配置（全中学校・22名）
- ④ 部活動社会人指導者の活用（213名）
- ⑤ ハートフルサポーター、特別支援教育介助員の配置（126名・41名）
- ⑥ スクール・サポート・スタッフの配置（全小中、特別支援学校・72名）
- ⑦ ぎふスーパーシニアの活用

教育委員会

学校

事業や取組等の見直しによるサポート

- ① 適正な勤務時間の設定
- ② 部活動における休養日設定の確実な実施（平日1日、土日どちらか1日は休養日）
- ③ ストレスチェックの徹底
- ④ ノー残業デー実施
- ⑤ 夏季休業期間における学校閉庁日の設定（2年目・16日間）
- ⑥ 管理職の意識改革と評価
- ⑦ 教職員の意識改革を目指した研修事業の見直し（オンライン研修）

2－1 （株）ARROWSの学校の健康診断の進捗状況

1. 学校の健康診断

- **教職員にアンケートを実施し、学校の課題を見える化**
 - ・ 多忙化解消に向けて、課題か何かを分析
 - ・ **業務の負担を数値で示す**ことで、改めて教員の意識を客観的に把握
（総合評価、組織風土、役職別の負担度、改善すべき業務ランキング、ICT活用 等）
 - ・ 市教委より各学校の基礎情報、勤怠データの提出

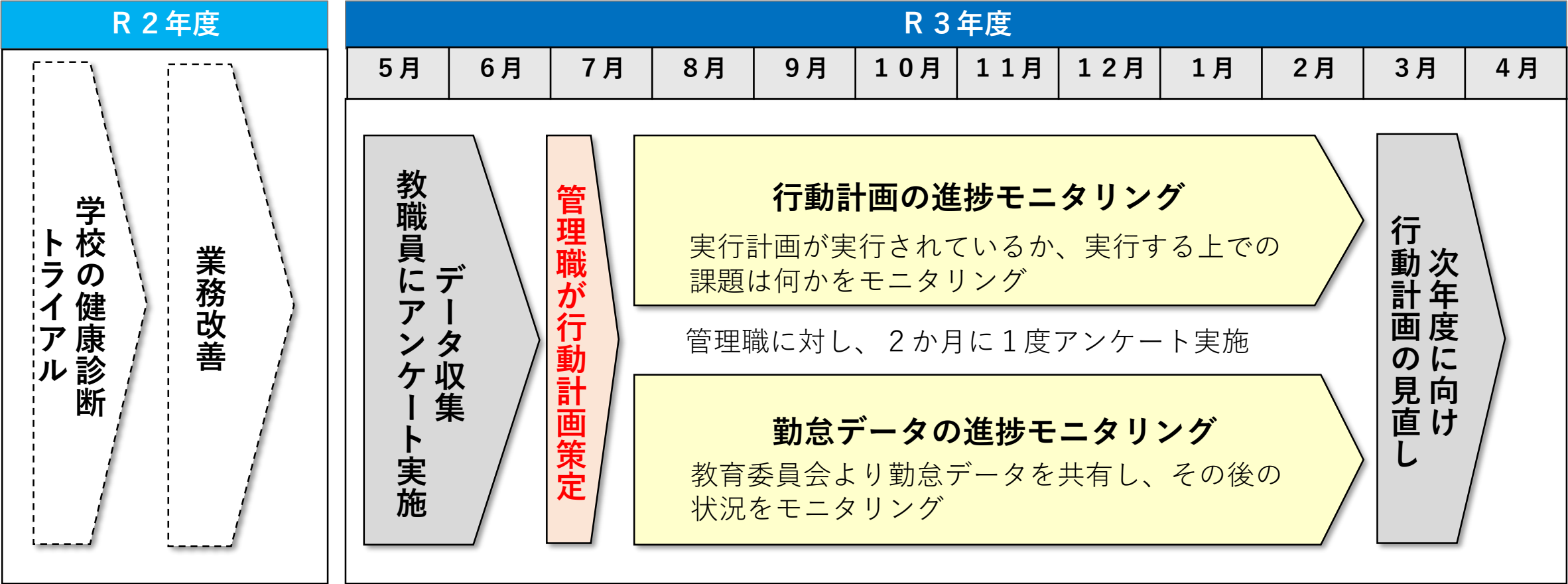


2. 各学校の業務改善計画

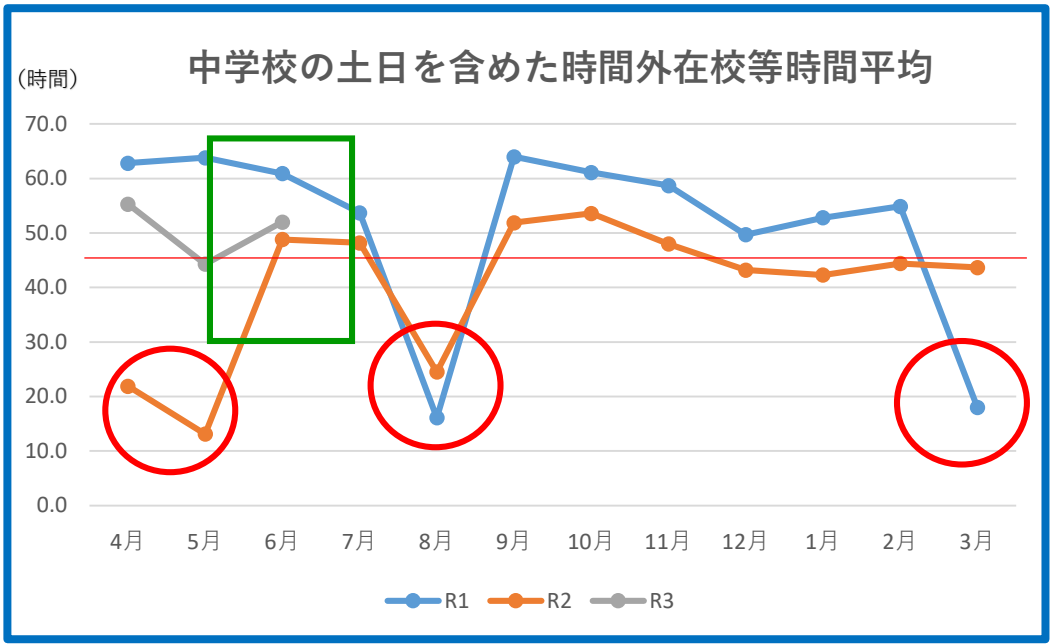
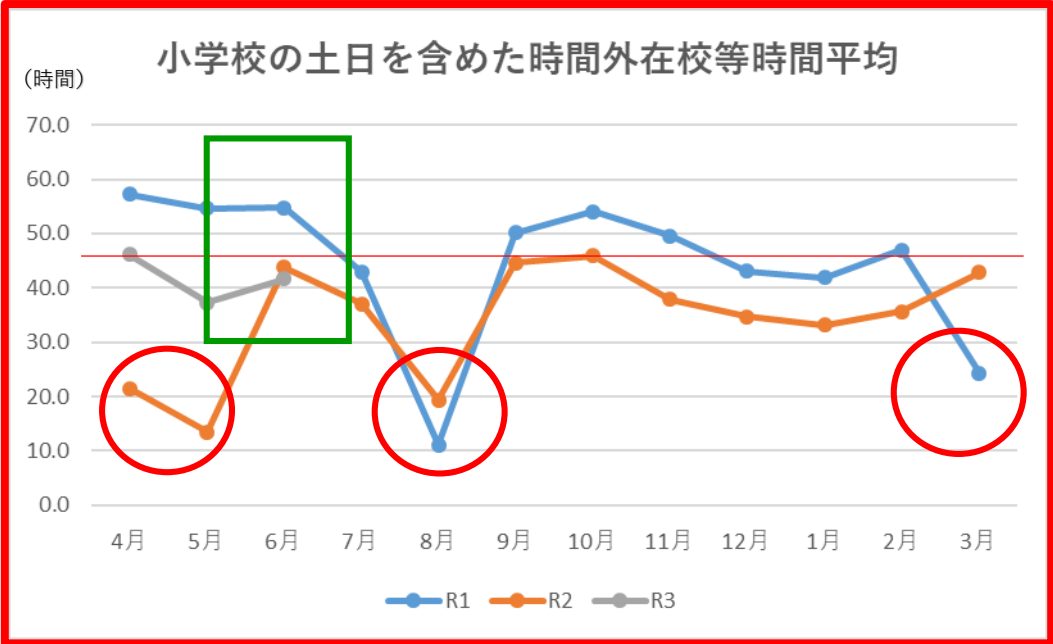
- **診断結果を元に行動計画の策定**
 - ・ 学校の健康診断をもとに、**管理職が業務改革の計画を策定**
 - ・ 計画をもとに各校での取り組みを実施
 - ・ 定期的なモニタリングと好事例、他校の実践例の紹介

2－2 （株）ARROWSの学校の健康診断の進捗状況

実施ステップ



3 岐阜市立小中学校における教員の時間外在校等時間の推移



小学校	(時間)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	57.3	54.7	54.8	43.0	11.1	50.2	54.0	49.6	43.1	41.9	47.0	24.3
R2	21.4	13.5	43.8	37.1	19.4	44.6	45.9	37.9	34.7	33.2	35.6	42.9
R3	46.1	37.3	41.6									

中学校	(時間)											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R1	62.8	63.8	60.9	53.7	16.1	64.0	61.1	58.7	49.7	52.8	54.9	18.0
R2	21.9	13.1	48.8	48.2	24.5	51.9	53.6	48.0	43.2	42.3	44.4	43.7
R3	55.3	44.3	52									

6月で比較すると、
小学校
54.8→41.6時間
▼13.2時間
中学校
60.9→52時間
▼7.1時間

4 「学校の健康診断」から分かった改善すべき業務（教職員の意識）

小学校

順位	業務名	負担と感じる割合	重要と感じる割合	改善方法
1	土曜授業	80%	7%	事業の見直し
2	所見の作成	62%	55%	DX推進
3	道徳計画訪問	60%	36%	事業の見直し
4	教育委員会主催の研修	59%	53%	DX推進
5	個別の教育支援計画の作成	58%	70%	DX推進

中学校

順位	業務名	負担と感じる割合	重要と感じる割合	改善方法
1	土曜授業	79%	7%	事業の見直し
2	日々の部活動（土日を含む）	63%	57%	部活動改革
3	練習試合・大会の引率や当日運営	62%	57%	部活動改革
4	テストの作成・採点	58%	92%	DX推進
5	職員会議	57%	70%	DX推進

5 DXの推進・ICT（タブレット）を活用した学校業務事例

現時点での活用

会議、研修、情報共有等の効率化と利便性向上

- ① オンライン研修による移動時間の削減
- ② 職員会議資料等、紙資料はデジタル化し1つにして共有
- ③ 学校便り等のタブレット端末への配信

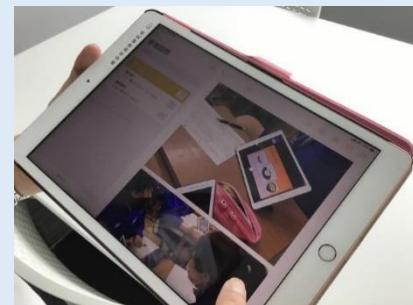
オンライン研修



研修資料のデジタル化



学校訪問記録



学校便り等配信



スクリーンタイム 設定方法

スクリーンタイムとは、アプリの使用時間等を制限したり、
利用可能な時間を制限したりすることができる機能です。

6 部活動支援の取組状況

岐阜市立中学校

岐阜市中学校部活動指針

- 平日 週4日・2時間以内
- 土日 いずれか1日・3時間以内



学校外▶総合型地域スポーツクラブ 市内7クラブ（内中学校3校）

長森・日野スポーツクラブ（長森中）
精華スポーツクラブ（精華中）
みわスポーツクラブ（三輪中）

■部活動指導員（中学校に22名を配置）

<職務>

- ・部活動の実技指導
- ・部活動の大会、練習試合等学校外での活動の引率
- ・校長の命により部活動の顧問
- ・1週間につき8時間の勤務 時給1,600円

<資格>

- ・中学校又は高等学校の教員としての指導経験がある者
- ・協会、連盟等が認定する指導者資格を有する者
- ・岐阜市の社会人指導者として同一校で5年以上の指導経験を有する者

■部活動社会人指導者（全中学校に213名配置）

<職務>

- ・部活動の実技指導
- ・各月2日間のべ5時間以上を原則として派遣
- ・5日間以上指導8,800円
2日間のべ5時間から4日間指導5,000円

<選定及び任命>

- ・各中学校が推薦する者の中から、市教育委員会が選定し任命する。

※現在は、中学校1校あたり9人を配置

7 現状把握を踏まえた課題

DXの更なる推進について

- ・ 児童生徒の出欠席に関わる連絡は、現在、**電話連絡で行っており**、保護者にとっても手間になることや、教職員が**諸帳簿への記録を別途行う**必要がある。
- ・ 職員会資料や学校からのお便り、学習プリント等の**印刷業務**には、**時間と手間**がかかっている。
- ・ デジタル化に向けた**教職員のスキルアップとフォロー**が必要である。

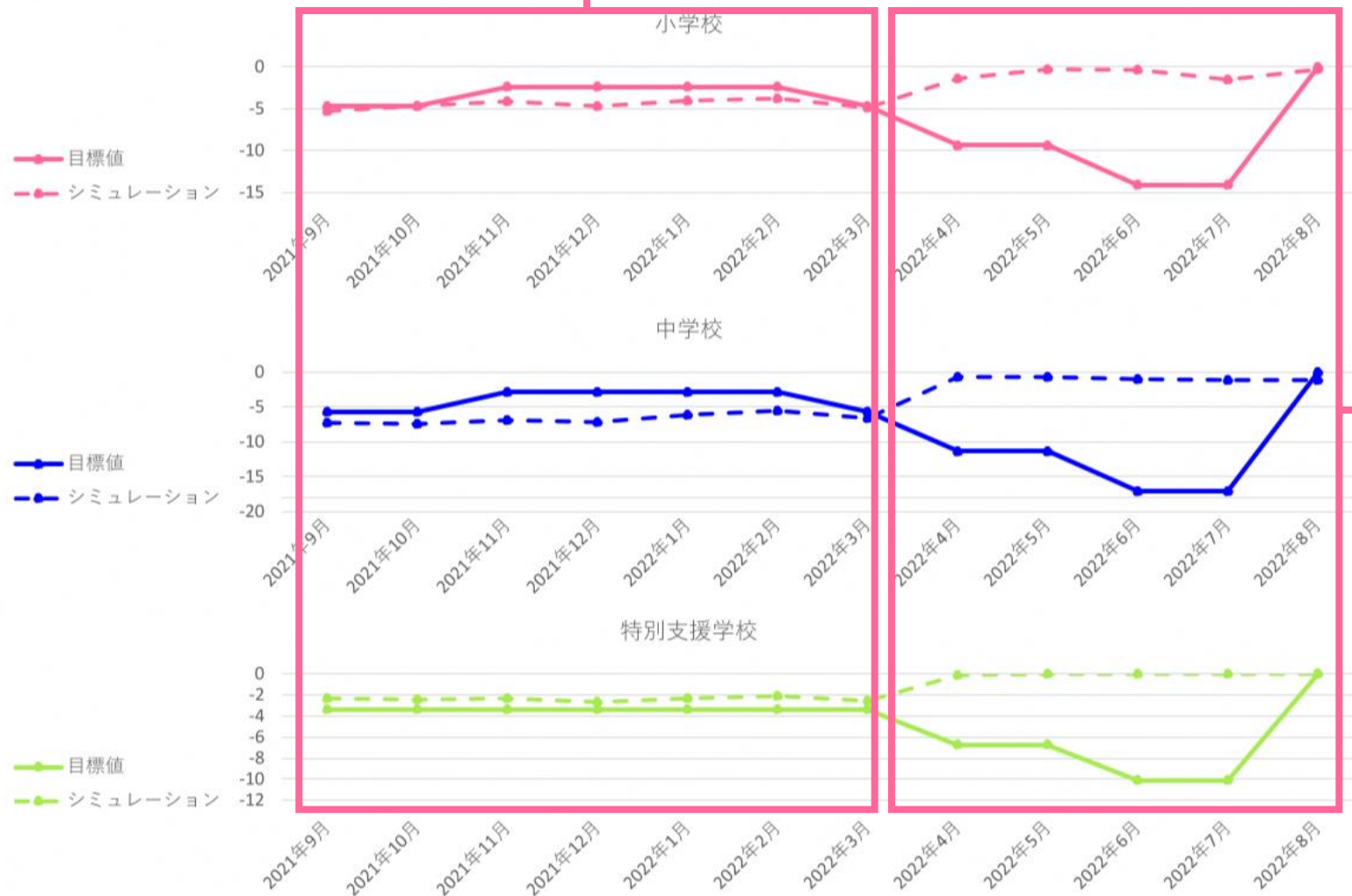
部活動の地域移行について

- ・ **社会人指導者は**、単独で指導したり、**大会や練習試合の引率ができない**ため、休日の部活動及び大会引率には、必ず部活顧問が参加する必要がある。
- ・ **部活動指導員**は、**現在、1校1名程度の配置**しかできず、教員の負担軽減につながる部活動が限られている。
- ・ **部活動指導員**は、部活動に対する派遣であり、増員しても**土日の部活動の地域移行とはならない**。
- ・ **統合型地域スポーツクラブ**は、地域での立ち上げが必要であり、**市内での広がりがない**ため、地域移行が一部の校区に限られる。中体連との関係性も整理する必要がある。

参考資料

1 学校による削減時間シミュレーション

教頭会において各学校が策定した行動計画のシミュレーション結果です。



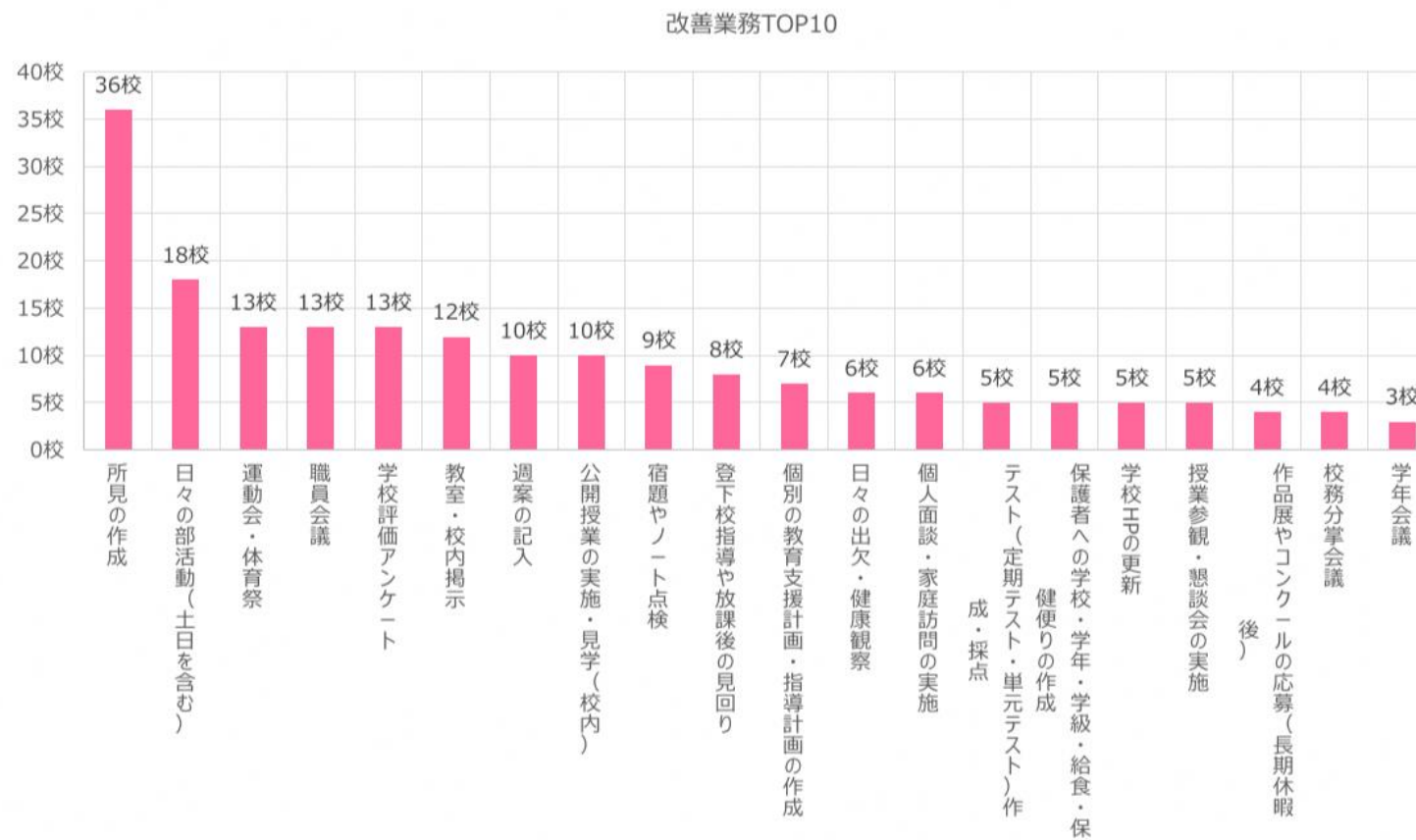
学校単位で年度内に可能な取組は、目標値を達成できるよう意識して、各校が計画を立ててくださった。

一方で、来年度以降は、学校単位だけの取組のみでは目標値達成に足りない。

→自治体全体の取組が不可欠

2 学校が取り組む改善業務TOP10

以下、多くの学校が行動計画で改善対象として選んだ業務です。



岐阜市立中学校の部活動設置状況（部活動を設置していない草潤中学校を除く）

1 部活動数 ◇1校平均1.6

運動系部活動 281 文化系部活動 93 計 374

2 顧問（教員）数

運動系部活動 454人 文化系部活動 89人 計 543人

3 外部指導者数（部活動指導員、部活動社会人指導者等） ◇1校平均1.1人

運動系部活動 244人 文化系部活動 14人 計 258人

1・2・3の結果から、外部指導者により負担軽減は図られているが、
 $(550人 + 22人) \div 374 = 1.53$ 完全な複数顧問制とはなっていない。

R3岐阜市中学校部活動設置状況及び指導者数																			
-----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[illegible]

草潤中学校は部活動未設置

部活動の現状と課題

- 1 部活動が持つ教育的な意義
- 2 部活動と保護者クラブ・総合型地域スポーツクラブ
- 3 部活動と指導者
- 4 部活動と中体連
- 5 部活動と教職員の声
- 6 これからの部活動のあり方

1 部活動が持つ教育的な意義

■学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について (令和2年9月1日)

部活動は、生徒の自主的、自発的な参加により行われるものであり、**学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等**に資するものであり、学校教育の一環として、学習指導要領に位置付けられた活動である。

部活動に参加する生徒にとっては、スポーツ、芸術文化等の幅広い活動機会を得られるとともに、**体力や技能の向上**に資するだけでなく、教科学習とは異なる集団での活動を通じた**人間形成の機会**でもある。部活動は**多様な生徒が活躍できる場**であり、豊かな学校生活を実現する役割を有する。

■教職員の実感

- 1 部活動も、生徒の**自己実現**の場
 - ・明確な目標設定で、やる気の高まり。
 - ・頑張れる自分を、思いっきり発揮できる。
- 2 異年齢の活動で、よりよい**人間関係づくり**の場
 - ・先輩として、よりよい姿を見せようと努力する。
 - ・後輩として、先輩の姿に憧れる。
 - ・後輩思いの先輩、先輩を慕う後輩の関係。
- 3 生徒の**自主性・自発的な態度**を育む場
 - ・自分たちの力で、活動内容を工夫する。
 - ・自分たちの力で、活動を運営する。
 - ・自分の役割、責任を果たす。
- 4 生徒との**信頼関係構築**の場
 - ・部活動を通して生き方を一緒に考える。

2 部活動と保護者クラブ・総合型地域スポーツクラブ

■現状

- 1 保護者クラブの設置状況
 - ・全ての部活動に、保護者クラブがある状況ではない。
 - 2 保護者クラブの運営状況
 - ・土日部活動は、部活動**5割**、保護者クラブ**5割**の割合で運営される市内中学校が多い。
 - ・土日部活動を、**保護者クラブのみ**で運営している市内中学校もある。
 - ・**教職員**が指導に参加しているクラブもある。
 - 3 総合型地域スポーツクラブと**連携**している中学校
 - ・長森中学校 ・精華中学校
 - ・三輪中学校
- ※運営状況は保護者クラブとほぼ同様

■課題

- 1 クラブでの**生徒管理**
 - ・ケガへの対応
→部活とは別の保険に加入
 - ・生徒間トラブルへの対応
- 2 生徒への**過度の負担**とならない配慮
 - ・学校の部活動ガイドラインに基づいた、土日クラブ実施日の把握。
- 4 クラブ指導者の**確保**
 - ・部活動の社会人指導者とクラブの指導者が同じとは限らない。
- 5 保護者クラブ・総合型地域スポーツクラブ運営**予算確保**
 - ・クラブからの指導者への報酬は、些少。指導者はほぼボランティア。
- 6 運営主体の**責任能力**の脆弱さ
 - ・重大事故が起きた時の対応。

3 部活動と指導者

■現状

- 1 教職員に**競技歴等のない部活動の顧問**を任される。
 - ・専門的な技術指導は困難。
 - ・生徒は専門的指導が受けられない。
- 2 **一人で顧問**を任される。
 - ・土日等、大会や練習が続くと負担。
- 3 社会人指導者は技術指導がメイン。
 - ・生徒間で起きる**トラブル解消は、教職員**の仕事。
- 4 全ての部活動に、社会人指導者が配置されているとは言えない。

■取られている対応策

- 1 技術的指導を支援
 - ①岐阜市中学校部活動社会人指導者派遣事業
 - ②岐阜県運動部活動指導員派遣事業
- 2 複数顧問制へ
 - ・生徒数減に伴う教員数減
 - ・部活動数の縮減(廃部規定設定)で、複数顧問制を維持。
- 3 生徒指導対応
 - ・部活動中に起きる生徒指導対応は教職員

■課題

- 1 全教職員で部活動顧問の割り振り
 - ・引き受けざるを得ない部活動顧問
- 2 社会人指導者の質の担保
 - ・技術指導法及び体罰、ハラスメント等の研修は継続して必要
→研修は毎年実施あり
 - ・指導資格の規定づくり
- 3 岐阜市社会人指導者及び県運動部活動指導員の増員
 - ・更なる教職員の負担減につなげる

4 部活動と中体連

■中体連の現状と課題

- 1 大会の設定は、学校単位
 - ・全国中学校体育大会を頂点に地方大会を構成
 - ・学校単位での出場が必須
- 2 岐阜市中体連大会の現状と課題
 - ・全て教職員による主催・運営
 - ・事前準備等を含め、主として運営に携わる教職員の献身的な働きによって支えられている大会
 - ・大会運営費は岐阜市中体連補助金のみ
 - ・当日大会運営に携わる、教職員へは予算範囲内の役員費のみ支給(ほぼボランティア感覚)
 - ・熱中症のリスク、新型コロナウイルス感染症のリスク、突発的なケガのリスクを抱えながらの運営
 - ・救護系の役員は、市内小中学校養護教諭が対応
 - 岐阜地区大会・岐阜県大会は2年前から予算確保し看護師が救護係として対応

■改善策(案)

- 1 生徒の出場機会確保
 - ・単独校でチームが成り立たない場合は、合同チームでの出場を今後も承認していく。
 - 2 岐阜市大会運営にかかる教職員の負担軽減
 - ①開催競技種目の縮減
 - ・地区・県大会への予選を伴わない種目の市大会は実施しない。
 - ②救護係は看護師へ
 - ・養護教諭の負担軽減
 - 補助金増額又は分担金の増額
- ※全国中体連の組織がある限り、地方大会の在り方を工夫するしかない。
- ※中体連大会の受け皿を、協会や連盟主催の大会に移行できたら・・・。

5 部活動と教職員の声

■ 負担感のない教職員

自分がやってきた競技を教えたいと思って、教師になった。生徒の記録の向上や、人としての成長を見ることが、教師としてのモチベーションになっている。

時代は変わってきているが、部活動の指導は生徒指導上も重要であると思っている。複数顧問制や保護者クラブがあることで、土日がいつも部活動というわけではない。生徒の笑顔を見られるのはうれしい。

部活動で喜怒哀楽を生徒と共にできることがいい。部活動で築く生徒との人間関係は、学校生活や教科指導でも大切なもの。生徒との良好な人間関係で、生徒の、様々な力を伸ばしていきたい。

■ 負担感のある教職員

教員の働き方改革が求められている中、特に部活動は、勤務時間外の仕事であり、少ない手当で、働かされるのには納得がいかない。土日に部活動をさせられるのであれば、どこかで振替の休日が欲しい。そうならない現状であるから、土日の部活動はやりたくない。

土日の部活動だけでなく、平日の部活動も考えてもらいたい。中体連前になると、最終下校時刻が延長され、部活動の時間も長くなる。勤務時間外まで、部活動となっている現状はなんとならないものか。

自分がやったことのない運動部の顧問になるのはやっぱりつらい。何も教えることができない。生徒の管理のみに休日の時間が割かれるのも正直つらい。

6 これからの部活動のあり方

生徒たちの「活動の場の確保」と、教員の「負担軽減」の両立を叶えることができるか。

■令和5年度に向けた「休日の部活動の段階的な地域移行」に向けて**学校が考えること**

案①:現時点、休日部活動の受け皿は「保護者クラブ」「総合型地域スポーツクラブ」しかない。

▲すべての部活動に「保護者クラブ」があるわけでない。

→保護者クラブのない部活動には、土日の活動を行う希望がある場合は、立ち上げを要請する。

▲クラブの指導者への報酬は、クラブで賄うことを依頼する。

→指導者もボランティアだったから成り立っていたこともあったが・・・。

▲指導者の確保の問題。教員が頼られる現状もあり。

→クラブの指導に携わりたい教員は、兼職兼業の手続きを踏む。

部活動手当と同程度の報酬がクラブから支給できることが望ましいが・・・。

案②:部活動指導員の増員が見込めれば、土日の部活動を、指導員に任せることができる。

▲部活動指導員増員のための予算措置を期待できるか。

案③:部活を含め、スポーツ少年団から各種協会や連盟等、大きな枠組みの中で、地域の子供の活動の場確保、指導者確保及び指導報酬まで網羅した、体制づくりを行政主導で検討いただく。

6 これからの部活動のあり方

生徒たちの「活動の場の確保」と、教員の「負担軽減」の両立を叶えることができるか。

■教員の負担軽減に向けて学校が考えること

- ・平日部活動を勤務時間内で終える方向を視野に。

○教員にとっては、勤務時間内に部活動を含めた業務が終了することとなる。

▲生徒にとっては、中体連等の大会前を考えると、十分な活動時間を確保できない。

→平日の最終下校時刻後、クラブが受け皿になって、活動する学校は岐阜市内中学校は少ない。

→日課をやり繰り(5時間授業・短縮授業等)し、勤務時間内に部活動の時間を確保することを検討する。

(参考)令和3年度A中学校の状況

- ・教職員勤務時間 8時10分から16時40分
- ・生徒の帰りの会終了時刻16時
- ・6・7月の部活動がある日の最終下校時刻17時30分

- ・休日部活動はクラブで。(前スライドのとおり)